



視点の先の未来を見つめて

a-view

2015
WINTER
Vol.457

[ナビュー] Nichiha across the view

平成27年12月16日発行

第32回 NICHHA SIDING AWARD 2015

Contents

02 | NICHHA SIDING AWARD 2015

26 | 新商品紹介

29 | Topics & More

30 | カーボンオフセットサイディング ～森のために、木を使おう～



S様邸(愛知県)

市川大輔

architectural design market 様

審査員評

車の交通が頻繁な道路に面して建つ住宅であるため、前面に駐車場を置き建物を奥に引いた配置である。中庭タイプの内向的なプランだが、中庭は摺りガラスとモエン大壁工法のスクリーンを介して西側の前面道路に向けて開かれている。この半透明なスクリーンが西日を制御し、街に対して柔らかく開いた印象的なファサードを形成している。このスクリーンがアプローチを包み込み、人の気配を伝えるようなプランへと統合されれば、一層魅力的なデザインになった可能性を残している点が惜まれる。



とみ皮膚科クリニック(静岡県)

平岡建築デザイン

一級建築士事務所 様

審査員評

幹線道路に面して新しく開設した診療所なので、ローコストながらも人目をひく、分かりやすい看板のファサードが求められた。この難しい要求に対して、設計者は多様な色相とテクスチャが用意された標準サイズのサイディングをパッチワーク的にファサードに張り回し、アルミニウムの横目地によってメリハリをつけた印象的なデザインによって応えている。工業化された安価で高性能な既製部品の潜在的な可能性を生かした巧みなデザインといってよいだろう。



第32回

NICHIHA SIDING
AWARD 2015

32回目を迎えたNICHIHA SIDING AWARD 2015。

昨年に引き続き、グランプリ・プラチナ賞・ゴールド賞に住宅部門と非住宅部門を設け実施。

インテリアデザイナーの杉本貴志氏、建築家の難波和彦氏による審査の結果、
21作品が選出されました。



難波 和彦 KAZUHIKO NAMBA

建築家・東京大学名誉教授。放送大学客員教授。

1947年 大阪生まれ。'77年 一級建築士事務所(株)界工作舎を設立。代表作に「箱の家」シリーズがあり、標準化・多様化、サステナビリティをコンセプトに掲げた都市型住宅のプロトタイプとしてデザイン・開発を手がける。グッドインテリアデザイン賞、新建築吉岡賞、住宅建築賞、JIA環境建築賞、建築学会賞業績賞など多数受賞。

総評

昨年に比べると応募数は若干増加したとはいえ、残念ながら今年の応募作品は、デザイン・レベルにおいては全般的に低調だった。その遠因は、東日本震災以降のアベノミクスによる公共事業のパラマキと、東京オリンピック開催決定に、消費税率の引き上げが加わってもたらされた、建設物価と職人不足による労務費の高騰にあるように思われる。とはいえ、サイディング業界にとって、このように建設費のコストダウンが求められる事態は、むしろ追い風と言えるのではないだろうか。手の込んだ外装仕上げからサイディングへと変更される場合が多々あるように思われるからである。そのような場合に重要なのは、デザインの担当者が「安かろう悪かろう」的な気分になることなく、コストダウンを逆手に取り、サイディングによるデザインの可能性を追求することである。今年の上にラインナップされた作品の多くは、そうした対応を地道に追求したものばかりである。グランプリ、プラチナ、ゴールドを獲得した作品に共通しているのは、性能とコストパフォーマンスを見据えながら、サイディングの選択に細心の注意を払い、しかもその使い方がきわめて単純明解である点である。複数のサイディングを張り分けて装飾的に使用することも一法ではあるが、それ以上に、デザインと性能の比較検討を通して選びぬいたサイディングによって統一する潔さが求められているように思う。



[審査委員長]

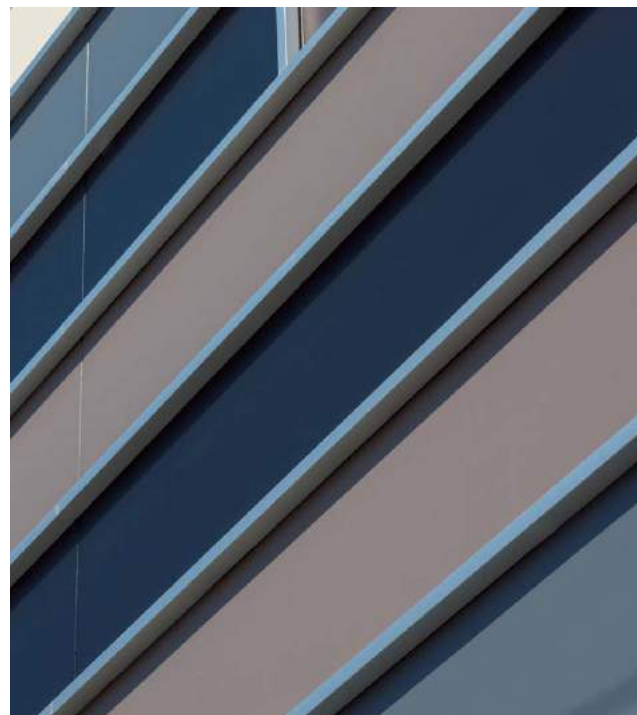
杉本 貴志 TAKASHI SUGIMOTO

インテリアデザイナー。

1945年、東京都生まれ。'68年東京藝術大学美術学部卒業後、'73年、(株)スーパーボテを設立。商業空間のデザインを数多く手掛け、バー、レストラン、ホテルの内装デザインから、複合施設の総合プロデュースまで幅広い分野で活躍。'84年、'85年毎日デザイン賞連続受賞。2008年米紙Interior Design Magazineより「Hall of Fame Awards」を受賞。

総評

毎年NICHIHA SIDING AWARDの審査の作品群を見る事が楽しみの一つになっている。それは、これらの建築のありようが極めて身近で、日常的で、恐らく我々の周囲に特別な建築として作られたというよりも、望ましさは勿論にしても、難しい思想としてではなく、よく言えば軽々と存在しているように見えるのである。建築のあり方の一つの方向を示すものであろう。非住宅部門のグランプリのクリニックも、シンプルさと個性の両立が気持ちよく、余分なことを述べていない。住宅部門のグランプリS様邸、これはなんとも“きり”の良い住宅である。こういう生活は多少勇気がいるかもしれないが、同時にそうしてみたいと言う緊張感が少々たかぶる。心中の葛藤があるにせよ、気持ち良くゆさぶられるのも事実である。非住宅部門プラチナ賞の介護施設は、特に変わったものではない。しかし、半歩だけ前に出ているように感じられる。半歩引込むとこの良さが薄まってしまって普通になるのだろう。この半歩が大事に思えるのである。ゴールド賞の複合介護施設は、この一つ一つのマス目に様々な生活が有り、ひいては過ぎてきた時間やこれからの時間が蓄積しているのであろう。暮らしの様式や価値も同様である。それらが重なり合って新しいシンプルな風景を作っている。住宅部門では、プラチナ賞の仏生山の家が、この住宅を成立させている周囲の景観は素晴らしいであろうと感じさせる。その事があってこの住宅は完成する。ゴールド賞の住宅においては、目立たせずに静かに佇むという住宅の望ましい在り方ではないだろうか。生活には様々な価値、考え方があり、建築はそのことと密接な関係を持つのだが、こういう考え方には誰しもが強く好感を持てる。かくありたいのである。



撮影 スターリン エルメンドルフ
存在感のある壁。「真っ黒でもないし、真っ白でもない。その暖味なクールトーンに茶系を入れました」(平岡先生・美香先生)



とみ皮膚科は、かつて富士登山に向かう修験道者が通った大淵街道に面している。



使用商品 フラットウォール 無塗装品(シーラー品) EDX240C / EDX240

撮影 スターリン エルメンドルフ

第32回

NICHIHA SIDING AWARD 2015

施工写真コンテストも32回目を迎えます。

応募総数369作品の中から各賞が決まりました。

今号ではその受賞作品を一举にご紹介します。

GRAND PRIX

富士山麓に建つ医院



平岡美香代表「とみ先生は本当にいい方で、工事をしてくださった皆さんからも「また富士に来てね」と言っていたので嬉しかったです」



平岡孝啓先生「僕が設計全般を見て、彼女が事務所の経営やお金のことなどを見ているから彼女が代表になっています(笑)」



溝利弘章さん「いかに心地良い空間でくつろいでいただけるかを考えました。平岡からは「白をポジティブに使え」と教えられています」

とそうと考え、光の道をつくりました。皮膚科にいらつしやる患者さんにとつてよろしくない直射日光を避けるために外側に窓をつけないという点でも、間接的に光を取り入れるというのは理に適っていました。

美香代表「地面と空のあいだに診察室があり。それをつなぐものとして光があるという設定になっています。」

平岡先生「浮いた箱をどうデザインするか、については、当初ラジエーターみたいな、金属のフィンがたくさんついたものを考えていましたが、重量的に現実的じゃない。やはり面材でいくべきだろうと考えたときに「サイディングでいけるんじゃない?」ということになりました。「で」って言い方になっちゃいますが(笑)。

美香代表「サイディングを使うことでこれが実現したという...」

平岡先生「法的なこともありますからね、サイディングだからできたっていうようなね。」

美香代表「ブレンなものを使わせていただきましたが、いかにアレンジしやすい材料かと今回、改めて感じました。」

ニチハ「ありがとうございます。ラジエーターのイメージだからこの形なんですね。そこにアルミのパイプを走らせて。」

美香代表「はい。」

ニチハ「...そういう発想はどこから出てくるのですか?」

平岡先生「そうですね。たとえば「ピロティは暗いな」という具合に、いつも空間で感じている長所や欠点に向き合うということかな。建築つて、作るのとは物ですが、建てば状態になる。日の当たり方は変わるし、風が吹けば葉が揺れる。そういうモノの見え方や感じ方を普段から意識する、そう

ニチハ「このたびはご応募くださり、ありがとうございます。グランプリ獲得、おめでとうございませう。」

美香代表「大きな賞をいただき、大変嬉しく光栄です。ありがとうございます。今回、とみ皮膚科の写真撮ったカメラマンと一緒に現場にいたときに受賞の連絡を頂戴して「やったー!」と皆で大喜びしました。この賞をいただいたのは、ご依頼主である川村都美先生とご主人が温かく見守ってくださったおかげ、また施工が大変で、工期も短かったにも関わらず、地元でナンバーワンと言われる大手施工会社の石井組さんが頑張ってくださったおかげです。」

ニチハ「どのあたりが大変だったのですか?」

美香代表「まずスケジュールとコスト管理ですね。富士山麓は掘ると必ず「岩(溶岩)」が出てきます。それを取り除く必要もあったのに、確認申請から竣工まで半年とスケジュールがタイトだったということ、決してローコストではなかったのですが、あちらでお金がかかる分、こちらはコストを抑える、といった調整が必要でした。」

平岡先生「今回の医院は駐車場を確保するためにピロティにする、という条件がありました。でもそこを暗くしたくなかったので、上から光を落

GRAND PRIX

グランプリ 住宅部門
とみ皮膚科クリニック(静岡県)／平岡建築デザイン 一級建築士事務所 様

「この積み重ねだと思っんですね。美香代表… 私たちほとんど土日も休めない状態なんです。年に2回、日本を脱出してリゾートに行きます。日常と違うところに身を置いてリフレッシュするんですけれど、どうしてリラックスするのかを考えながら、感覚として身体で感じる。それも役立っているのかなと思います。」

医院という建築

ニチハ… 色づかいもきれいです。このパッチワークづかいは結構難しいものですが。溝渕さん… この模型を作って色を決めました。こういうデザインを考えると、どうしても正面から見えてしまうんですけど、平岡が「実際に建ったとき、通りのこちら側から見えて見えるか、体感的にどんな長さになるかを意識しよう」とこだわらして、実際に四角に組み、こう見るとこの色が多いかな、ここをもう少し長く、という具合に何パターンも作りました。色と長さ。本当に大変でした(笑)。

ニチハ… 模型がいくつもありますね。

美香代表… 幅も違うんですよ。エイ、ヤー！じゃなくてね。塗装見本を並べて皆で太陽光の下で、同じ茶色でもどの茶色にするかって。

平岡先生… グレーと黒と白。そこに茶系を入れていくという構成ですね。構想の段階で鮮烈で派手な印象の外観になることはわかっていましたので、色はむしろ抑えたらおもしろいかなと考えました。

美香代表… 景観条例などで指定されるような色だけを使つて。

ニチハ… 景観条例区域ですか？

美香代表… いえ。自主的景観条例です(笑)。富

士山につながる道。古くからの建物も建っている中で、看板になるような建物にしたい。でも奇抜で皆さんから受け入れられないものでは困る。でも目立ちたい、ということでアースカラーを中心にアレンジしました。

ニチハ… 医院じゃないみたいです。

平岡先生… 私たちはいつの場合も、「病院らしくない」といわれることが、褒め言葉であるような作り方をしています。ただその「病院らしくなさ」が、ノリでやっちゃいましたという感じにならないような、流行を追っただけではない安心感につながる空間であるとか、その辺は心がけています。

ニチハ… 実はそこを伺おうと思っていました。建物に愛想がないほうが名医というイメージがあるんじゃないかと。

平岡先生… ああ、ボロボロのラーメン屋さんの方がおいしそうに見えるような(笑)。

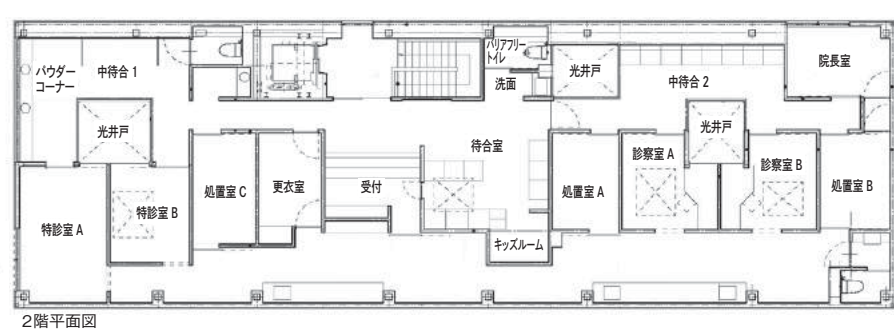
美香代表… 赤ひげ先生みたいな感じですよ(笑)。

平岡先生… 今回の医院は「保険診療」と「自費診療(美容皮膚科)」とあるわけですが、保険がきかない高額な自費治療を行う医院の場合は、ある程度の構えがあった方が安心感があるだろうと考えています。

美香代表… それに医院にとって機能性や合理性は昔から大切にされてきたことですが、必ずしも患者さんにとつて安らげる空間であるとは限らない、と思うんですね。待っているときの不安な気持ちを和らげるために、これまでの病院のイメージからいかに離れるか。でも離れすぎてもいけない。そのあたりのバランスを考え、どこに着地点を持つていくか、というのが毎回、考えどころです。また、患者様目線でいraftしやるとみ先生ご

汚水マスを塗り替えたり、皆、一緒の方向を向いて、すごく忙しい中でしただけと手間のかかることを提案してくださったことが嬉しかったです。それだけにお別れるのがつらかったです。最後にお会いするのは写真撮影の日ですが、開業の準備に追われるなかで「先生ありがとう」と言い合つて「寂しいですね」と話して感極まるという感じで。いつもそうですけれど。

ニチハ… その後はどうですか？と聞くまでもない気がします。



撮影 スターリン エルメンドルフ
直射日光が入らないように配慮された居心地の良い待合室。光道に差し込む日の光は壁に当たり、反射して室内を照らす(左と奥が光道)。

自身が、診療時間以外にもひとりでクリニックに出て長い時間過ごす際に心地良い空間であればと考えました。

人への思いがこめられた結果

ニチハ… とみ先生のご評価はいかがでしたか？

美香代表… 「わー！ 思ってもみなかったものが出来てきて、すごく嬉しい」という感じでした。

平岡先生… 大人に向かって失礼ですが可愛らしい方です。背も高いし、モデルみたいにかいかな先生なので、社内でもイメージを検討するときは「クールビューティの建物だから」なんて言っていました。本当に朗らかで、ほわんとしたこともおっしゃるような(笑)。

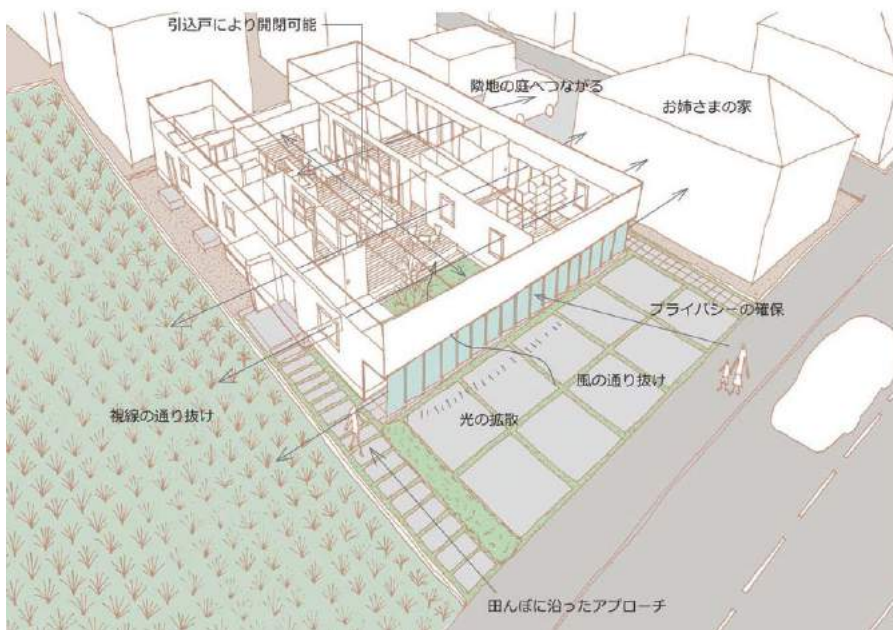
美香代表… 本当に素敵なお方でした。先生のお力になりたいという思いは石井組さんと同じだったようで、ベントキャップの色をわざわざ揃えたり、

美香代表… 評判はいいようです。先生にどうですか、とお聞きしたのですが、「この辺にはないセンスの良い建物」「いい意味で病院らしくない」とおっしゃっていたにいます。写真を見た皮膚科の先輩から「すばらしいね。とみさんらしい。クリニックをみれば、その医者の診療への取り組み方がわかるよ。この建物で、とみさんの信用が上がるね」と言われてとても嬉しかったです。聞きました。「お願いして本当によかった」と言われて私たちが嬉しいですね。

ニチハ… ありがとうございます。



撮影 スターリン エルメンドルフ
道行く人のためのライトアップ。葉の揺らぎが光に動きをもたらす。「光が乱反射して葉陰が幾重にも。これは予想外でしたね」(平岡先生)



市川様直筆の鳥瞰図。「平面図よりも理解してもらいやすい時もあります」と市川様。



使用商品 モエン大壁工法 小粒ロックS仕上げ

すりガラスを透過するやわらかな安心の灯
そのファサードは境界線を越えていく

親友のための家づくり

「やつてくれる?」「ぜひ」と、家づくりがスタートした今回のグランプリ作品。

お施主様のS様は、市川大輔様の中学時代の同級生で気心の知れた間柄。33歳の時、市川様が栃木県から地元である愛知県半田市に戻り、architectural design marketを構えたのは2年前。「家を建てる時に独立していたら、お前に任せる」と交わしたS様との約束は時を経て果たされた。

最初のプランは2階建てだったというS様邸。「幸い土地に余裕があり、2階建てにすると、庭が広くなってしまう。S様は庭いじりが趣味でも

ないし、無理して緑いっぱいにしてしまつて手入れに手間がかかるのもそぐわない」と思い、老後のことも考えて平屋を勧めました」と市川様。

平面プランは、南側に並ぶ個室、寝室、書斎と北側の水回り、応接室の並びが、中央のLDKを挟むシンプルな間取り。リビングの隣りに設けた個室は現在、姉妹の子ども部屋として使用すが、将来的には引込戸を全開すると、大きなLDKとして使えるようになっている。その仕切りの建具にはデザインと機能を兼ね備えた工夫も。「内部の建具はオリジナルで、ガラスにフィルムを貼っています。不透明、半透明、透明のグラデーションになっていて、子ども室とリビングの間の建具は、高いところだけ透明で、下にいくにつれて半透明、不透明と、見えないところが多くなっています。こちら側はリビングなので透明であつていい、こちら側はお風呂、トイレなので透明はまずい。プライバシーの度合いが建具の透明度に表れているという具合です」。

東側の中庭が奥様の要望通り、家事導線において洗濯物の干しやす場所として機能していたことは狙い通りとなり、一方で設計時の想定よりも、明るい室内空間となったという、嬉しい誤算も生まれた。

灯りを照らして境界線をほぐす

ファサードにすりガラスを採用するのは、市川様が最初から思っていたアイデア。ガラスが細かくランダムに並ぶようなデザインからスタートし、コストに見合うサイズと厚みの折り合いをつけ16枚の屏風形状に収まった。一番厚いガラスの厚みは19mmある。さらに特長的なのがガラスの



architectural design market
代表
市川 大輔 様



西側中庭よりリビングを望む。中庭を挟んで、北側と南側の部屋の窓が一直線に並んでいるので、視線が貫通して部屋の様子もわかり、空間の広がりも生まれる。



夕暮れ時に浮かびあがる、すりガラスから漏れるやわらかな灯り。

板一枚一枚に角度をつけ、前後に20mmの隙間を設けた凹凸のディテールだ。「この家には2つ中庭があつて、一つは洗濯物を日常的に干せる中庭、もう一つが日常的なものが現れてこない、お客さんをすぐに迎えることのできる中庭です。この中庭に風を通したかった。方角的に西日が入るので、風を通せば夏場も暑くなりません。風も通るし、光も通る。視線だけちよと遮られるディテールとなりました。」

外壁に採用したのは、モエン大壁工法。汚れに強くひび割れ防止性能に優れた吹付け塗材、小粒ロックSのパターンで仕上げている。モエン大壁工法は、ニチハのモエンパネルを用いて、専用の弾性目地処理材とソフトクロス、ジョリパット(指定弾性塗材指定パターン)で構成する、ニチハ独自の大壁仕上げ。すりガラスの繊細な凹凸感を際立たせるために、外壁をフラット感のある平滑な壁面とすることで調和を図った。

市川様が今回の住宅設計で考えたのは、「境界線をほぐす」こと。

「日本人は近代以降、都会化が進めば進むほど、ここが私の家、ここはあなたの家、と境界線をつくってきたと思うんです。敷地境界が目に見える境界線ですが、もつと言うと、河原など無意識的に入つてはいけないと思ひ込んでる目に見えない境界線がある。そうして作ってしまった境界線をどうやつてほぐすか、ということはこの住宅設計で考えるようになりました。この辺りは新興住宅地で新しい住宅が多い反面、一本奥まった道には古くから建つ住宅も多い。プライバシーを確保しながら、この家が建つことで喜ばれるのはどういうことだろうとも考えました。近くに小学校があつて家の前を通る子どもたちも

結構いるんです。冬には夕方5時近くになると暗くなつてしまうので、下校する子どもたちに灯りを照らすことができる。植栽が広がって落ち葉が隣家の道路につもると迷惑がかかるというて、植栽をなくしてしまふことがあります。そうすると境界を越えるなという話になるんですが、光なら越えても迷惑にならないんじゃないかと。道行く人がほつとするやわらかな灯りとなることを意識しました。」

地域活動に参加して発見する

市川様は半田市民として、地元の市民活動にも積極的に参加されている。半田は知多半島で古くから酢、酒、味噌、しょうゆなど、醸造文化を育んできた地域。そのシンボリックな建物、築120年を超える「旧中壁半六邸」が、無償で市から譲り受けた地元のNPO法人「半六コロボ」によつて、耐震改修を終え、11月に生まれ変わったばかり。「半六邸」は江戸後期から明治初期に海運業や醸造業で財を築いた中壁半六の住宅。約3000㎡の敷地には、2階建ての母屋と4つの蔵がある。

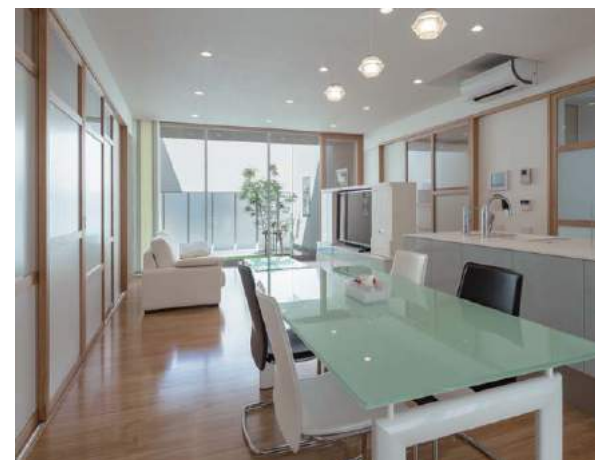
「半六邸は取り壊されようとしていました。しかし地元の方々が、歴史的に貴重な建物を残して管理運用するNPO団体を立ち上げ励んでいらつしやるのを見て、その活動に参加したいと思ひました。つくる側ではなく建物を使い、利用する立場から見ることができたことは貴重な体験です。また、亀崎という地域では、古民家再生、空き家再生プロジェクトにも関わらせていただいています。そこに「せこ」という公的、私的なものが混じり合う路地があります。道の真ん中に井戸があつてちよと人つていくと、その路

地に、洗濯物が干してあつたり、植木や自転車があつたり。鬼門地蔵という公的なものが、家の軒下にあつたりする。いい意味で公私混同の境界線があいまいな空間で、地域コミュニティが育まれていた。町とか家というのは、自分のものを超えて他者のものであつたりしたわけです。しかし、近代的な価値観はそれを許さない。今の町や家は果たして住みやすいのか、豊かなのか、そこは疑問で、亀崎に行くことが学べるわけです」。

一緒に考える場所でありたい

事務所を構え駆け出したばかりだけれど、建築に対して未来を描けず、行き詰まり感を感じること。床面積が飽和状態といわれている中で、「それでも建築をやるのか」、「お客さまが減るのやるのか」と自問自答することもあります。でも儲かるためだけを目標にやつていないし、僕の中であきらめきれないところもあつて、先輩方のお仕事を見るにつけ、「それでもやるぞー」と奮い立たせています」と市川様。

社名「architectural design market」には、建築設計やデザインをもつと身近なものとして利用してもらいたいとの願いが込められている。「魚屋さんとスーパのの違いを考えた時、「今晚マツタケをもらったけれど、それに合う魚は何かしら？」と魚屋さんでは相談できたわけですね。しかしスーパは自分で見て決めなければならぬ。献立を決めて買いに行くこともあるでしょうし、店頭で並んでいる中から選ぶかもしれない。それは建築とよく似ていて、住宅が必要になって初めて建築家に依頼したり、展示場へ行くわけです。お施主様はどうするか自分たちで決めて、その後が僕らの仕事になっている。でも、こつこつ



ホワイトと木製建具の明るい茶色ですっきり統一された、リビングダイニングキッチン。



開口部を設け北側に感じない玄関づくりも心がけた。



「高校時代に見たメキシコの建築家、ルイス・バラガンの作品集が、建築家を志すきっかけになった」と市川様。右はニチハ市場開発部(名古屋)リーダー 鈴木。

市川様は「知多」をテーマにトークイベントを主催されている。その名も「545まちばなし」。11月には、今年発売されたウイスキーの新ブランド「知多」にまつわる話をメーカーの方より伺う会が催された。5市5町で成る知多半島を拠点とする地域にまつわる人や、地元企業の方と語り合うことで地域課題に向きあい、志を共有する会を目指しているという。

世帯人数、生活スタイルが多様化する近年において、建築的な視点で様々な価値観に沿った住まいを提案する。地元の文化を尊重する市川様だからこそ、そこに住む人々の共感が得られるのだろう。

生活がしたいけれど、新築にするのか、空き家をリノベーションするのか、ハウスメーカーの家にするのか、どういった住宅が合っているのかを一緒に考える場がないんですね。ここがそういう場所になれるかも、いやなりたいと思っています」。



広大な田園風景を
バルコニーから望む
深い軒が和を醸す
モダンデザイン。



審査員評

モダンでありながらも深い軒によって和風の雰囲気を出したきれいなデザインである。足元を取り囲むコンクリートの塀と、サイディング張りの軽快な住宅との対比、彫りの深いL字形バルコニーと軒のない箱型棟の組み合わせ、さらに外周壁の白色サイディングと底下の褐色サイディングを張り分けることで彫りの深さを強調している点など、印象深いデザインである。

使用商品
リキッドシェイプ／シャドーMGベージュ SPA242P
マイスターウッド調V／イデアルMGチャコール EF9353N／EF9353F

ホワイトとナチュラルな木目柄でもてなす、
清潔感と温もりある高齢者施設。



使用商品
ボメロストーン調／エアルMGアイボリー EPB401N／EPB401F
キャストイングウッド／ミディアムブラウンMG EPC241N／EPC241F
ラドーレ／イストワMGエボニー EPS485F

※ラドーレ以外は耐火等級「3等級」の商品を使用しておりますが、「NSスーパーフレーム工法」により、3階建てにおける1時間耐火の国土交通大臣認定を取得しております。

審査員評

介護老人施設の外壁をサイディングで仕上げた建物である。基本色を白色とし、ベランダの腰壁に縁甲板横張り調のサイディングを張り、玄関周りのアクセントとして褐色タイル調のサイディングを張り分けている。単調なデザインになりがちな老人施設を、サイディングを使い分けることによって、コストを抑えながらヒューマンなデザインに仕上げた秀作である。



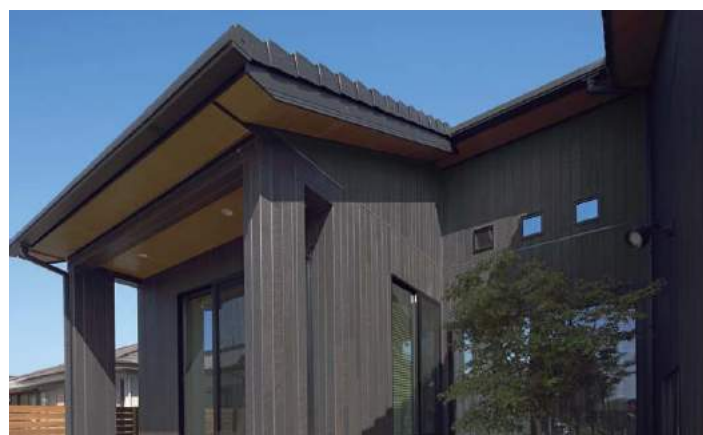
Ⅰ 様邸(宮崎県)
万代ホーム株式会社 様

審査員評

耐候性と防火性を兼ね備えながらも、木質系外壁の要求に応えたデザインである。木質系とはいえ、いわゆる木目調ではなく、黒く抑えたテクスチャが落ち着いた雰囲気を出している。同色系で黒く抑えた片流れ屋根とソーラーバッテリーパネルとのバランスもよく、木目調の玄関ドアや縦ルーバーがデザインのポイントになっている。

使用商品

キャストイングウッド／カーボンブラックMG EPC244N／EPC244F
軒天12 木目調／ティンバーベージュ YL141
アウティ 押出し破風 SLシリーズ／ブラック JA178113



屋根と壁の色調を黒く抑え、
アクセントにした玄関や軒天。
新しくても、時を経ても
変わらない落ち着いた暮らし。

GOLD

目指したのは地域との共存、豊かな自然環境と建築物の調和。
木造の住み心地をかなえる、斬新で機能的な複合介護施設。



複合介護施設 菜の花の丘(静岡県)
株式会社リカルドトッサーニアーキテクチャー 様
施工 臼幸産業株式会社 様

審査員評

大規模木造建築物の老人介護施設である。入居費用を抑えるために徹底したローコストだけではなく、高度の耐久性と耐火性が求められた。広大な敷地周囲は緑に囲まれているため、屋根と外壁は暗色系一色のサイディングで統一している。この種の施設に対する窯業系サイディングの適用性の高さを証明したデザインといえるだろう。

使用商品

コートリーウッド／トランクMGブラック EPS495F
フラットウォール／アグレアMGビュアホワイト EPS241N／EPS241J



入賞

Appeared Wall House(愛知県)
アーレックス株式会社 様

審査員評
周囲にマンションや工場が建ち並ぶ住宅地で、不特定な人が通過するため、視線を制御する建物配置と開口部の配置が要求された。西側の前面道路に対しては壁によって視線を制御し、南面に窓を集中させている。凹凸のある外壁には異なる色の外壁を張り分けることによってアクセントをつけている。

使用商品
ナチュラルラインII/テンダーMGホワイトII
SPA191P
軒天12 スチップル調/シェルホワイト
YL121



入賞

那珂の家
「移りゆく白いキャンバス」
(茨城県)
飯田貴之建築設計事務所 様

審査員評
東側が道路に面し、南北間口が狭く、東西の奥行きが深い敷地に建てられた、東西に細長い平屋住宅である。深い庇で日射制御を行い、大きなテラス窓によって開放的な室内空間を生み出している。白色サイディングを外壁に張り回すことによって、モダンでキレイのいいデザインにまとめている。

使用商品
フォームフラット/シンプルMGホワイト
SPA251P

撮影 椎木 広



入賞

Belle famille(東京都)
株式会社コスモスモア 様

審査員評
南を道路に面し、南北に細長い敷地に建てられた鉄骨造3階建の集合住宅である。道路側の南面に大きな窓を集め、東西の側壁には必要最小限の開口を設けた町家型のデザインで、側壁にリブ付きサイディングを、南面壁に木目調サイディングを張り分けることによって、町家的な雰囲気強化している。

使用商品
キャストウッド/ミディアムブラウンMG EPC241N/EPC241F
リブ9(パール)/シルキーMGパールII EPS238G
しぶきV/プラムMGアッシュII EF5357G/EF5357J

※ リブ9以外は耐火等級「3等級」の商品を使用しておりますが、「NSスーパーフレーム工法」により、3階建てにおける1時間耐火の国土交通大臣認定を取得しております。



入賞

TOKIN TOKIN(愛知県)
株式会社濱田建築事務所 様

審査員評
二辺が道路に面した三角形の敷地に、1階をRC造、2、3階を木造とした三角形平面の住宅である。2、3階は1階よりも張り出し、やや閉鎖的な2、3階の外壁全面をサイディングによって仕上げている。重厚な1階と軽快な2、3階の対比が、サイディングによって演出された好例と言えるだろう。

使用商品
モエン大壁工法





撮影 笹倉洋平

入賞

Slide House (兵庫県)
株式会社y+M design office 様

審査員評

南向きの急斜面に建つRC造と鉄骨造による混構造住宅である。南向きの視界を枠取りするように大小のフレームを組み合わせたファサードが目立つ。鉄骨造による凹凸の多い2層分の外壁面を、モエン大壁工法によるシームレスな壁面によって仕上げ、陰影を強調した複雑なデザインが印象的である。

使用商品
モエン大壁工法



撮影 笹倉洋平



入賞

K様邸 (岐阜県)
株式会社森住建 様

審査員評

角地に建つL字プランで軒を低く抑え、水平性を強調した住宅である。建物全体をモエン大壁工法で覆うことによってシンプルでモダンなデザインでまとめ、随所にポイントとして天然木を配している。2面道路に呼応したL字形の彫りの深いファサードが印象的である。

使用商品
モエン大壁工法／小粒ロックS仕上げ



入賞

I様邸 (岡山県)
株式会社クレックスタッミ 様

審査員評

交通量の多い国道に面した平屋の住宅である。建物全体は水平線を強調した黒色の金属サイディング張りの箱である。東側の広い駐車場に面した外壁面の手前にもう1枚の白色スクリーンを立て、黒と白の壁面の隙間に玄関ポーチを設けている。白と黒の対比を演出したキレのいいデザインである。

使用商品
FN型ダイヤシェイプ／ブラック
1FD2G01L



入賞

大台町介護老人保健施設
みやがわ・報徳診療所
(三重県)
三重県大台町 様

審査員評

老人福祉施設と診療所が近接する福祉拠点施設である。前者は鉄骨造2階建、後者は木造平屋建てだが、屋根を同勾配とし同材で葺き、外壁を同系色とすることによって全体としての統一感を図っている。サイディングが外壁材として採用されたのは、国産材の端材を木材チップに加工して用いたオフセットサイディングであることが理由である。

使用商品
○ 介護老人保健施設みやがわ
センチュリー耐火野地板
CPN1800

○ 報徳診療所
ビローネブリック調／ビローネMGローズグレイⅡ
EJB495E
フラットウォール／無塗装品(シーラー品)
EDX240C／EDX240

報徳診療所

介護老人保健施設みやがわ

REFORM

リフォーム賞

T様邸(東京都)
近藤建設株式会社 様

審査員評
街道沿いに建つかつての町家的な店舗付き住宅のファサードを全面的にリ・デザインし専用住宅へと変えたリフォームである。かつてのファサードの手前に1枚の壁を立て、1階の店舗を駐車場とリビングに変えている。1、2階のサイディングを張り分け、2階を白い箱のように見せたデザインが印象的である。

使用商品
ボメロストーン調／エアルMGアイボリー
EPB401N／EPB401F
レンクストーン／ピアラMGブラウン
EPA304Y



リフォーム前



リフォーム後

リフォーム賞

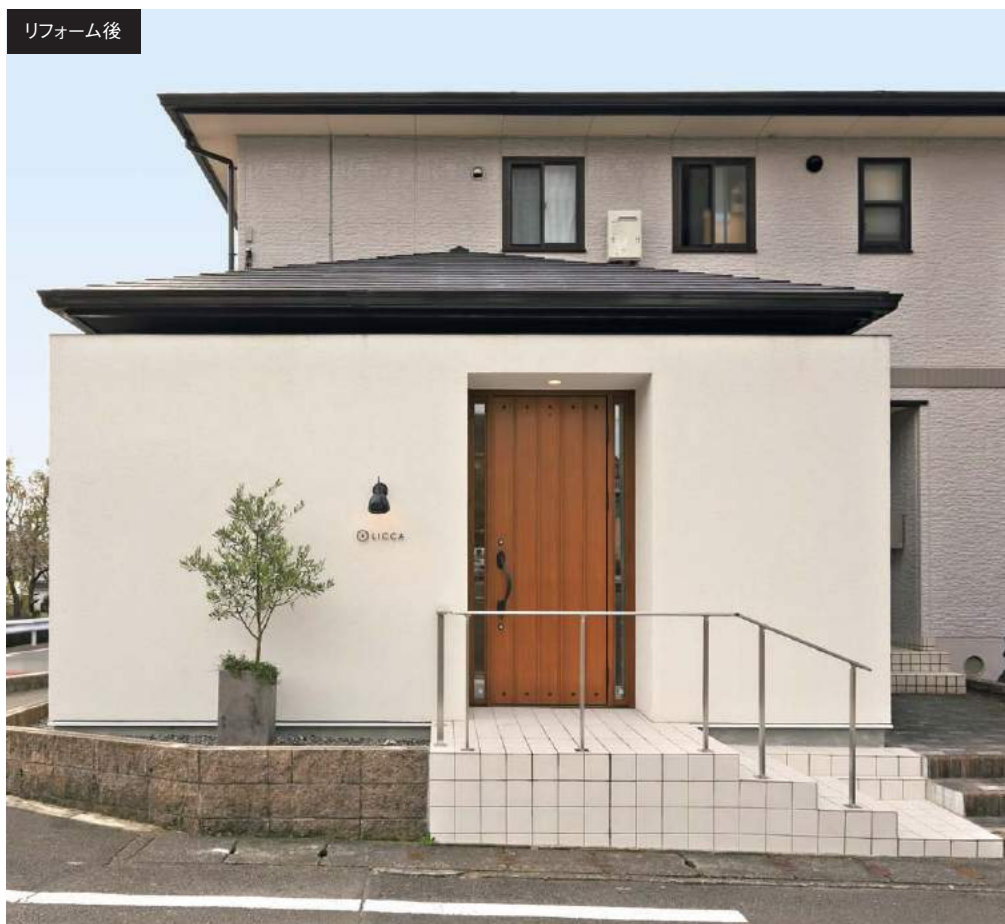
美容室LICCA(リッカ)(静岡県)
タカラスペースデザイン株式会社
佐藤 斉 様

審査員評
既存建物の下屋部分をそのまま残しながら、外周に自立壁を立てることによってダブルスキンを形成し、内部を美容院に改築したリフォームである。屋根と外壁をそのまま残しているが、モエン大壁工法による白くシームレスな壁によって街角におしゃれな雰囲気を醸し出している。

使用商品
モエン大壁工法／エンシェントブリック仕上げ



リフォーム前



リフォーム後

PRIZE

入賞

太陽をたくさん浴びた
スローでシックな家(広島県)
株式会社ジューケン 様

審査員評
周囲を山並みに囲まれた田園地帯に建つクライアントの事務所が附属する職住近接住宅である。住居部分はリビングの吹き抜けに南東向きの巨大な開口を持つ箱型のデザイン。事務所部分は切妻屋根を持つ1層の付属棟の組み合わせで、2種類のサイディングとモエン大壁工法を組み合わせで多様な表情を生み出している。

使用商品
キャストイングウッド／カーボンブラックMG
EPC244N／EPC244F
無垢板型枠RCウォール／RCMGグレー
WFX541G
軒天12／木目調 ティンバーベージュ
YL141
モエン大壁工法



入賞

マタノココの家(福岡県)
松本勇介建築設計事務所 様

審査員評
田園地帯に建つ仕事場を持った住宅である。1階に仕事場と住宅の共用空間と主寝室、2階の子供室を配置している。車のアプローチや仕事場の増築、子供室の変化などを考慮した結果、ピロティや凹凸のある複雑な造形になったため、全体を白一色のサイディングで覆い、陰影のあるデザインにまとめている。

使用商品
フラットウォール／アグレアMGビュアホワイト
EPS241N／EPS241J

Fu-ge賞

ALBAX長久手南No.1 (愛知県)
アイシン開発株式会社 様

審査員評

里山の風景を残した住宅地に建つ住宅である。南面を道路に面した敷地なので、深い庇によって日射を制御し、白色と木目調のサイディングを張り分けることによってファサードを演出している。永く快適に暮らす住まいのコンセプトにマッチした、メンテナンスコストを大幅に削減する外壁材が選定された。

使用商品

セルクレール／エルフィンMGクリアホワイト
EFF021F

キャストイングウッド／ナチュラルオーカーMG
EPC248N／EPC248F



Fu-ge賞

釧路鶴ヶ岱アパート(北海道)
北海道ブレイス株式会社 様

審査員評

鉄骨造3階建てのアパートである。2面を道路に面した角地に建っている条件に対して、それぞれのファサードを、ファブリックの質感が個性的な同柄のグレイと白のサイディングで張り分けることによって表情を演出している。左右の継ぎ目が目立ちにくい柄ゆえに、より一層、一体感のある美しさを誇る。

使用商品

ラトワール／ラトワールシルク
EFF081E

ラトワール／ラトワールモノクローム
EFF084E

妻飾り コーベルタイプ／ブラック
FFA5288

第32回
NICHHA SIDING
AWARD 2015

グランプリ

【住宅部門】

- S様邸(愛知県)
市川大輔／architectural design market 様

【非住宅部門】

- とみ皮膚科クリニック(静岡県)
平岡建築デザイン 一級建築士事務所 様

プラチナ賞

【住宅部門】

- 仏生山の家(香川県)
株式会社寒川建築研究所 様

【非住宅部門】

- アズハイムテラス成増(東京都)
株式会社コスモモア 様

ゴールド賞

【住宅部門】

- I 様邸(宮城県)
万代ホーム株式会社 様

【非住宅部門】

- 複合介護施設 菜の花の丘(静岡県)
株式会社リカルトツサニアーキテクチャー 様
施工 臼幸産業株式会社 様

入賞

- 那珂の家「移りゆく白いキャンパス」(茨城県)
飯田貴之建築設計事務所 様

- Belle famille(東京都)
株式会社コスモモア 様

- Appeared Wall House(愛知県)
アーレックス株式会社様

- TOKIN TOKIN(愛知県)
株式会社濱田建築事務所 様

- K様邸(岐阜県)
株式会社森住建 様

- 大台町介護老人保健施設みやがわ・報徳診療所(三重県)
三重県大台町様

- Slide House(兵庫県)
株式会社y+M design office 様

- I 様邸(岡山県)
株式会社クレックスタツミ 様

- 太陽をたくさん浴びたスローでシックな家(広島県)
株式会社ジューケン様

- マタノココの家(福岡県)
松本勇介建築設計事務所 様

リフォーム賞

- T様邸(東京都)
近藤建設株式会社 様

- 美容室LICCA(リッカ)(静岡県)
タカラスペースデザイン株式会社 佐藤 斉 様

Fu-ge賞

- 釧路鶴ヶ岱アパート(北海道)
北海道ブレイス株式会社 様

- I 様邸(埼玉県)
パーソナルスタイル株式会社 様

- ALBAX長久手南No.1(愛知県)
アイシン開発株式会社 様

ニチハ賞

- K様邸(北海道)
株式会社アルティザン建築工房 様

- K様邸(北海道)
株式会社アルティザン建築工房 様

- K様邸(宮城県)
株式会社高橋工務店 様

- 埼玉県さいたま市南区辻1丁目(埼玉県)
株式会社三栄建築設計 様

- ベルスタイル(埼玉県)
靖建築事務所有限公司社 様

- AGK-20-6,-7(埼玉県)
大賀建設株式会社 様

- Timber House(東京都)
株式会社KUS一級建築士事務所 様

- I 様邸(東京都)
株式会社AE総合計画 様

- HAMA-K.I.テラス(東京都)
住友林業株式会社様

- 世田谷区南島山5丁目レジデンスギャラリー(東京都)
株式会社コスモモア 様

- サービス付き高齢者向け住宅 わかたけの杜(神奈川県)
株式会社ソシダデザインワークショップ 様

- de l'Etoile(神奈川県)
夢工房だいいん株式会社 様

- H様貸施設 新築工事(神奈川県)
大和ハウス工業株式会社 様

- O様邸(愛知県)
吉村紳一級建築士事務所 様

- 名古屋グローリアスチャペル(愛知県)
設計監理:池戸建築事務所+向口武志 様

- 東区モダンスタイルの家(愛知県)
株式会社安藤産業 様

Fu-ge

Fu-ge賞

I 様邸(埼玉県)
パーソナルスタイル株式会社 様

審査員評

木造でありながら伝統的なイメージを払拭した都市型の戸建て住宅である。シーリングレス仕様の白色系のサイディングで外壁全体を覆うことによって、継ぎ目が目立たず、クリーンで軽快なデザインにまとめている。軒天の木目調サイディングもデザインのポイントになっている。

使用商品

セレンシアル／エルフィンMGクリアホワイト
EFF011F

軒天12 木目調／ティンバーブラウン
YL142



近日発売



メランジェ

サイズ：16×455×1820mm
4,752円/枚（税抜4,400円/枚）
5,738円/㎡（税抜5,313円/㎡）

ランダムに置かれた表情の異なる
テクスチャーが壁面の動きを表現。
陰影感を感じさせながらも、
均一に置かれたピースが落ち着きを与えます。



MELANGE



EFF181Y メラート MG ホワイト



EFF182Y メラート MG グレー



EFF183Y メラート MG ブラウン

印刷物のため実物の色柄と異なります。商品サンプル等でご確認願います。

近日発売



リエゾン

サイズ：16×455×1820mm
4,752円/枚（税抜4,400円/枚）
5,738円/㎡（税抜5,313円/㎡）

異素材を組み合わせた縦長のピースを
規則的に並べ、建物をすっきりと高く見せます。
日中の陰影変化に沿って異なる印象に。



LIAISON



EFF171Y ロシェ MG ホワイト



EFF172Y ロシェ MG ベージュ



EFF173Y ロシェ MG ダークブラウン

印刷物のため実物の色柄と異なります。商品サンプル等でご確認願います。

Fuge に新柄登場！

2012年度グッドデザイン賞受賞
「キャスティングウッド」の『Fu-ge』
オリジナルバージョン誕生!!

年月をかけて変化した木材の風合いをリアルに再現。
健康を司るギリシャ神話の女神カルナのように、
美しく躍動感のあるデザインに仕上げました。

Fu-ge

GOOD DESIGN

カルナウッド

サイズ：16×455×1820mm
4,752円/枚（税抜4,400円/枚）
5,738円/㎡（税抜5,313円/㎡）

左右板間の意匠を必ずしも連続しない設計とすることで、より自然で美しい木質感を表現しております。



ダークブラウン MG イメージ



EFF161Y ホワイトアッシュ MG



EFF162Y グレーシアンアッシュ MG



EFF163Y ミディアムブラウン MG



EFF164Y ダークブラウン MG



EFF165Y カーボンブラック MG



EFF166Y グレーシアンレッド MG

印刷物のため実物の色柄と異なります。商品サンプル等でご確認願います。

Topics and More

＼ZEHの普及に加速 経産省が2020年に向けてロードマップを策定＼

2016年はZEHをめぐる動きがいつそう加速する年となりそう。

ZEHとはゼロエネルギーハウスのこと。明確な定義はないが、住宅の躯体性能を高めることで省エネルギー性を突き詰め、加えて太陽光発電などの創エネルギーシステムを組み込むことで家庭での消費エネルギーをゼロ、もしくはマイナスとすることができ住宅のことである。

環境問題への対応、また、エネルギー問題への対策として、家庭におけるエネルギー削減が強く求められるなか「エネルギー基本計画」（2014年4月に閣議決定）で「2020年までに標準的な新築住宅で、2030年までに新築住宅の平均でZEHの実現を目指す」と政策目標が設定され、「長期エネルギー需給見通し」（2015年7月）でもZEH普及の重要性が指摘されている。また、国土交通省と経済産業省は、それぞれZEHに関する補助制度を実施してきた。

その一方で、民間でも取り組みが進んでいる。大手ハウスメーカーでは商品のラインナップとしてZEHの提案が相次いでいる。

ZEHは、けっして遠い将来に夢描いた未来住宅というわけではない。とは言っても、「2020年までに標準的な新築住宅でZEHを実現」という目標の実現に向けては、さまざまな課題があることは間違いない。

こうしたなか経済産業省は「ZEHロードマップ検討委員会」を設置、ZEHの普及に向けた課題を整理し、その解決に向けた方策の検討をしてきた。その中間とりまとめ案が先に公表されたが、ここではZEHの定義を明確化したほか、ZEHに関する目標を設定した住宅事業者などに対する優遇策などを検討するとしている。

定義を明確化 Nearry ZEHも位置付け

この案で、まず注目されるのはZEHの定義を明確化したことだ。先の通り、これまでZEHの明確な定義があつたわけではない。経済産業省と国土交通省の補助では、それぞれ異なる補助要件を設定している。

案で示された定義は――

外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅

とされている。つまり、創エネルギーをいくら多く設置しても、躯体の省エネルギー性能が低ければZEHではないということになる。まず、外皮の性能を上げることが優先される（言っているのである）。この外皮性能については、省エネ基準（平成25年基準）以上の性能を求めている。

また、これまでになかった概念として「Nearry ZEH」（仮称）を定義しているのもポイントだ。

例えば、狭小敷地などでは大きな面積の太陽光発電を設置できないことも考えられ、設計段階でゼロエネルギーをあきらめざるを得ない。そこで年間の一次エネルギー消費量を完全にゼロまたはマイナスとする「ZEH」に加え、年間の一次エネルギー消費量を可能な限りゼロに近づけた「Nearry ZEH」を定義つけたわけだ。

この「Nearry ZEH」は、強化外皮基準を満たした上で、再生可能エネルギーを除き基準一次エネルギー消費量から20%以上の一次エネルギー消費量削減、再生可能エネルギーを加えて基準一次エネルギー消費量から75%以上100%未満の一次エ

ネルギー消費量削減などの要求を満たしたものと定義されている。

ユーザーへのインセンティブを検討 高性能化・低コスト化も課題

案ではZEHの普及に向けた課題として、まず、ZEHの広報とブランド化が重要と指摘している。文字通り、エネルギーがゼロであるといったエネルギー消費量の面は言うに及ばず、健康面のメリットなどノン・エナジー・ベネフィットを消費者に訴求することが重要になる。さらに「エコカー」のようにZEHに暮らすこと自体が一種のステータスになるようなZEHのブランド化も重要だと指摘している。

もちろん、住宅そのものや機器の高性能化や低コスト化の技術開発と標準化も必要不可欠だ。普及を加速するためには、施主に対する何かしらのインセンティブも重要になる。

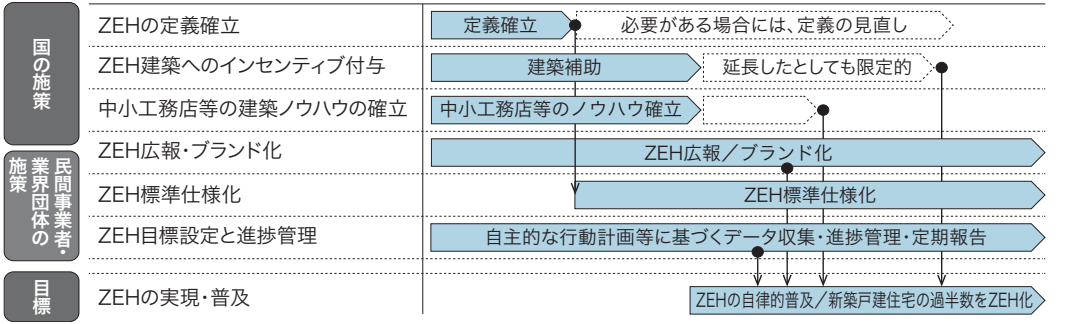
そしてもう一つ、ビルダーなど住宅事業者が積極的にZEHに取り組んでいくことも大きなポイントとして指摘している。案では、これについて住宅事業者が自主的にZEH化に向けた目標値を定め、その進捗状況などを公表していくことの必要性も示唆している。今後、ZEHの補助制度の要件として、企業としての目標値の設定・公表を求めることなどを検討していく方針だ。

案では、これらの課題をクリアしていく方策をロードマップ（図）にまとめている。

2015年12月中には最終的な中間とりまとめが公表される予定。今後、このロードマップに沿っての取り組みが着実に進められていくことになる。「2020年までに標準的な新築住宅でZEHを実現」という目標に向けZEHの取り組みは加速していくことになる。2016年はそのスタートダッシュの年となりそう。

ハウジングトリビューン 平澤和弘

ZEH普及に向けたロードマップ





ニチハの取り組みが、高く評価されました。

「ウッドデザイン賞2015」※ 奨励賞(審査委員長賞)

「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという3つの視点から、デザイン性が優れた製品・取組等を表彰する「ウッドデザイン賞2015」において、「カーボンオフセットサイディング」が、木を使うことで森林や地域の活性化に貢献する製品であるとして、上位賞である奨励賞(審査委員長賞)を受賞しました。



ウッドデザイン賞受賞
JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2015

「Forest Good 2015 一問伐・間伐材利用コンクール」※ 製品づくり・利用部門 特別賞

国産の間伐材を用いた「カーボンオフセットサイディング」は、木材が持つCO₂の固定・吸収効果に着目してCO₂オフセットクレジットを付属させているため、生活時に排出するCO₂を実際に相殺(オフセット)できる外壁材として、住まいの省CO₂化に加え、健全な森林づくりに貢献する製品であることが評価されました。



※間伐材利用に関するアイデア製品を募集し、広く紹介することを通じて間伐推進や間伐材の利用拡大に貢献していくことを目的に実施。
(主催:間伐・間伐材利用推進ネットワーク)

「第1回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靭化大賞)2015」※ 企業・産業部門 優秀賞

「ニチハエコ外壁プロジェクト」の取り組みが、国産木材資源の利用推進のみならず、外壁自体の強度向上、森林保全による土砂崩れなどの災害対策、低炭素化など、国土強靭化に多角的に貢献するものとして、高い評価を受けました。



ジャパン・レジリエンス・アワード
2015

※全国各地で展開されている「強靭化」に関する先進的な活動を発掘して評価し、表彰する制度。
(主催:一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会)

※建築、木製品、取組、技術、研究など木材利用促進につながるすべてのモノ・コトを対象に、木の良さや価値を再発見させる製品や取組について、特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する新しい顕彰制度。
(主催:ウッドデザイン賞運営事務局)
(特)活木活木森ネットワーク、(公社)国土緑化推進機構、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所(後援:林野庁)

森を育てる「エコ外壁」です。ニチハのカーボンオフセットサイディング。



カーボンオフセットサイディング

～森のために、木を使おう～

ニッポンに元気な森を取り戻すために、ニチハは新しい取り組みをはじめます。

間伐材の利用を促進して森林育成に貢献したい、その願いをカタチにしたのが、

国産間伐材を原料に使った外壁材「カーボンオフセットサイディング」。

家づくりが、森づくりにつながっていきます。

カーボンオフセットサイディングとは?

私たち人間は、毎日CO₂(カーボン)を排出しながら暮らしています。残念ながら、その量を今すぐ大きく減らすことは難しいのが現状です。そこで、自分たちがCO₂を出してしまう分だけ、別のCO₂削減活動にお金を出すことでCO₂を減らしていこう、埋め合わせよう(オフセット)とする取り組みを「カーボン・オフセット」と呼んでいます。また、カーボン・オフセットによって削減されるCO₂の量を算定し、数値化して取引できるかたちにしたものが「オフセットクレジット(CO₂排出権)」です。ニチハの「カーボンオフセットサイディング」に使われる木材チップは、100%オフセットクレジット(CO₂排出権)付の国産間伐材。つまり、住まいの外壁材に「カーボンオフセットサイディング」を選ぶ人が増えれば増えるほど、CO₂の削減と森林の育成に貢献できるのです。

カーボンオフセットサイディングをご購入いただくことで、
日本の森林資源を守り、地球温暖化を防止するプロジェクトに
参加することができます。

ポイント①

間伐材の利用促進が、林業の活性化と森林保全による土砂崩れなどの災害対策や地球温暖化防止(低炭素化)につながります。

ポイント②

カーボンオフセットサイディングに付加されたクレジットの購入代金を森林整備事業等に還元することで、ご家庭から排出されるCO₂の相当分をオフセット(相殺)することができます。

※ニチハでは、森林育成により生み出されたCO₂の排出権を活用したカーボン・オフセットを行っています。カーボンオフセットサイディングを通じて購入されたオフセットクレジット(CO₂排出権)をニチハが無効化することで、お客様自身が地球温暖化防止に貢献することができます。

カーボンオフセットサイディングを購入されたお客様にはカーボン・オフセット証明書を進呈します。



マークの商品は、すべてカーボンオフセットサイディング対象商品です。



「カーボンオフセットサイディング」が
「ウッドデザイン賞2015」
奨励賞(審査委員長賞)を受賞。

「Fu-ge」が
「ウッドデザイン賞2015」を受賞。



ウッドデザイン賞受賞
JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2015

ニチハ株式会社

名古屋市中区錦二丁目18番19号 三井住友銀行名古屋ビル
TEL (052) 220-5111
編集/ナビュー編集室
ホームページアドレス <http://www.nichiha.co.jp/>

編集後記

富士山に通じる旧街道を行くと、遠くからもそれとわかるたずまいでその皮膚科はありました。「『もうちょっとだからがんばりましょうね』って言ってくれた」と嬉しそうに話す女性の手を取りながら「よかったね」と答える娘さんとおぼしき人、奥様を送ってきたと見られる男性など、動線のよく考えられた駐車場は出入りがひっきりなし!受付の女性たちもこやかで親切で、新しいクリニックを「とても素敵で気に入っています」とおっしゃっていました。皮膚(肌)の悩みに応えたいという医師の思いを建築家が形にし、地元で広く愛されている...素敵なお話が今回も聞けました。私の皮膚に押し寄せている悩みも相談にのっていただきたいです!(S)

「今のビジネスモデルには、『私はこういう生活をしたいけど、どういう住宅が合っているかは分からない』という漠然とした想いを抱いている消費者が相談できる相手がいません」という話を以前聞いたことがあります。市川様のお話を伺っていて、そのことを思い出しました。ライフスタイルの多様化が進み、様々な生活の価値観に寄りそった提案が求められていることを市川様は感じ、取り組んでいらっしゃいます。さらに見つめる先は、家を越え、町を越え、地域の再活性化へ。知多半島からはじまる様々な活動が今後楽しみです。今回もまた、力強く清々しい風を浴びたような、心地良いインタビューとなりました。皆さま、良いお年をお迎えください。(T)